

こころの天気図

第7号

令和2年11月27日(金)発行
敦賀気比高校・同付属中学校 教育相談室
メールアドレス sodan@tsurugakehi.ed.jp



つまずいちゃった!?

まず、皆さんに質問をしたいと思います。

あなたが学校から家に帰ってきた時のことです。
持っていたカバンを廊下に置いて、ちょっとした用事を済ませようとしたとします。
すると、たまたま家族の誰かが通りかかって、カバンにつまずきました。
このとき、どのような会話が交わされるでしょうか。



これは、家族が誰かによって、答えが変わりますよね。
もし、相手が目上の人ならば、「こんな所にカバンを置いたのは誰だ。危ないだろ。」と怒られそうです。
でも、相手が目下の人ならば、「ちゃんと前を見て歩きなさい。」と注意するのではないのでしょうか。

この例でわかるように、コミュニケーションというものは、同じ状況であっても、誰と話すかによって話す内容を変える必要があります。特に日本では、敬語の文化が根付いていますから、ちょっとした言葉の違いがニュアンスの違いを生み、それによって思わぬ誤解が生じてトラブルになることが多々あります。

このことから、**良いコミュニケーションをとるためには、言葉遣いに気をつけることが大切だ**ということがわかります。

ところが、テレビなどを見ていると、誰に対しても同じような言葉遣いで話しかける人も見かけられるようになりました。このコミュニケーションの原則を無視したような方法も、よく考えてみると、**コミュニケーションにおけるトラブルを回避する手段**だともいえそうです。つまり、相手に合わせて言葉を選ぶということは、そこに選択をミスする可能性がありますので、そのミスをなくす方法として、**選択しない(同じ話し方をする)という方法もある**ということです。



しかし、この方法はあまりおすすめはできません。たとえば、初対面の人から、まるで友人であるかのように話しかけられたとしたらどうでしょうか。多くの人は、話しかけてきた人に対して不信感を抱くと思います。また、その人にたびたび会って、何度か会話を交わしたとしても、表面的なことしか話せないのではないかと思います。したがって、誰に対しても同じような言葉遣いで話しかけることを選択するのであれば、他の人との強い結びつき(友情や愛情など)を求めることはあきらめた方がいいように思います。皆さんはどのように考えますか。

さて、話を最初の質問から想像される会話のところに戻しましょう。

最初の質問に対する答えとして2つの言葉を示しましたが、この発言にはどのような意味があるのでしょうか。

これらの言葉は、**自分本位の主張**だけしか含まれておらず、極端に言えば、**自分の責任を相手に押しつけるような言葉**です。

人間であれば誰も自分のことを第一として考えますから、自分に何かの問題が生じたら(つまずいたら)、その原因を作ったものに責任を押しつけます(カバンを置いたのは誰だ)。

一方、自分が問題を起こすきっかけとなるようなことをした(カバンを不用意に置いた)のであれば、実際に問題を起こした当事者に責任を押しつけます(足下を注意しなかったことが悪い)。

このように、普段から何気なくやっている行動によって起こるトラブルはたくさんあります。

例えば、**私たちは自分が正しいと思ってSNSなどに情報を発信しますが、それを受け取った相手も自分が正しいと思って情報を見ている**。ここで、2人の考えが同じなら良いですが、考えが食い違えば摩擦が起き、炎上現象や「〇〇警察」現象などのトラブルが発生するのです。

簡単に自分自身の考えを広められる時代だからこそ、**自分自身が発した言葉に責任を持つことと、考え方やものの見方は1つではないことを、常に意識してほしい**と思います。



スクールカウンセリングのご案内

来月は、次の日程でスクールカウンセリングを行います。

気持ちが少し疲れて、誰かと話してみたいと思う人は、教育相談室まで申し出てください。

第1回 12月8日(火)

第2回 12月22日(火)

※ スクールカウンセラーの先生のご都合で日程が変更になることもあります。あらかじめご了承ください。